

No.93
2011
4.17発行

 議会だより

こここのえ



改選後の初議会当日（2月16日）撮影

新たな決意で



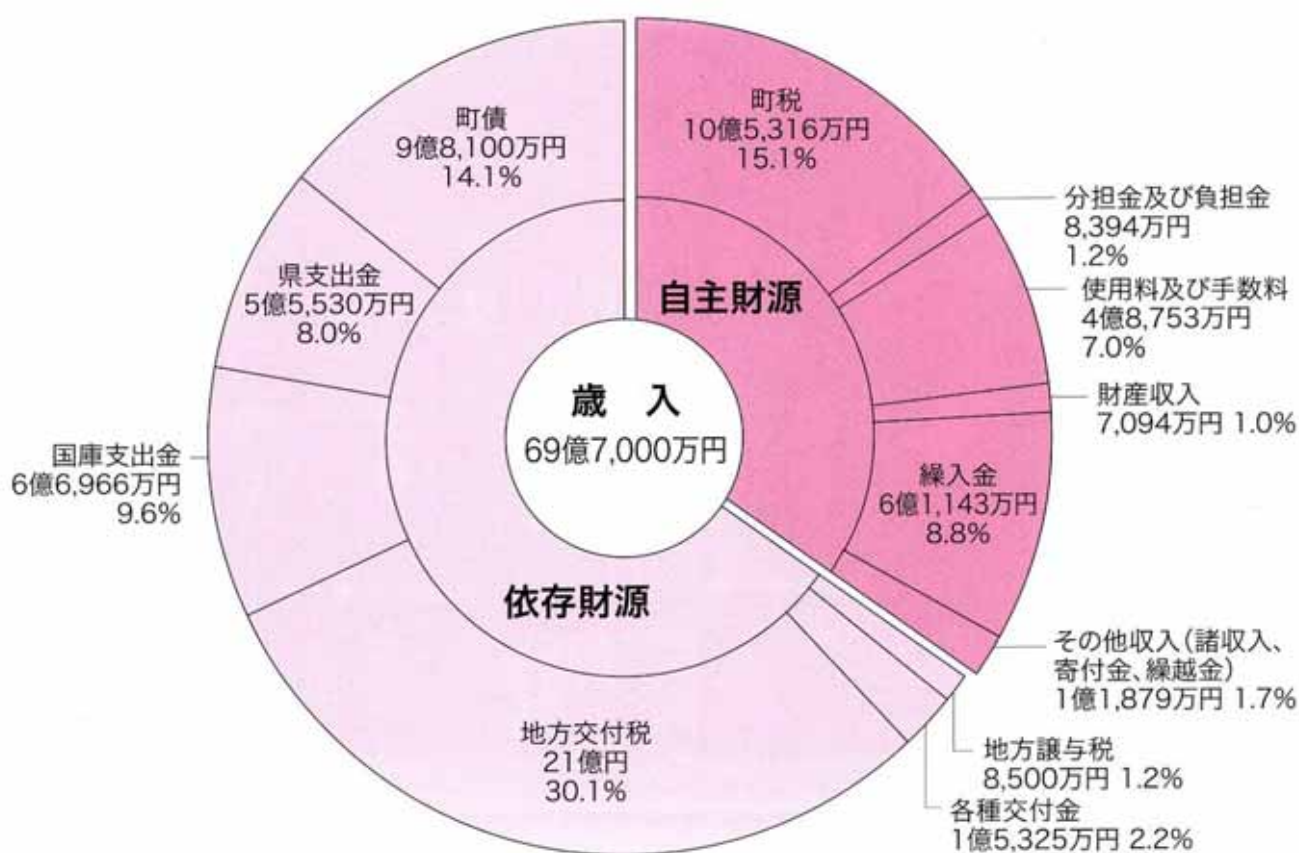
町の鳥(カッコウ)

3月定例会

- 23年度予算 P.2~3
- 議長挨拶・人事案件 P.4
- 常任委員会報告・質疑 P.5
- 当初予算質疑 P.6
- 一般質問 4人 P.9~12
- わたしのひとこと 宝泉寺 佐藤 勝司さん P.13
下旦4 阿部 征則さん

23年度予算総額 101億7,730万円

一般会計 69億7,000万円
特別会計 32億 730万円



【歳入】

【歳入】			費目	金額	率
自主財源	24億2,579万円	34.8%	町税	10億5,316万円	15.1%
			分担金及び負担金	8,394万円	1.2%
			使用料及び手数料	4億8,753万円	7.0%
			財産収入	7,094万円	1.0%
			繰入金	6億1,143万円	8.8%
			その他収入	1億1,879万円	1.7%
			地方譲与税	8,500万円	1.2%
依存財源	45億4,421万円	65.2%	各種交付金	1億5,325万円	2.2%
			地方交付税	21億0,000万円	30.1%
			国庫支出金	6億6,966万円	9.6%
			県支出金	5億5,530万円	8.0%
			町債	9億8,100万円	14.1%
69億7,000万円 100%				69億7,000万円	100.0%

【前年度対比】

自主財源である町税については、長引く景気低迷の影響により前年度対比2.7%の減となっている。

使用料については、大吊橋の入場者数も落ち着いてきており、全体として前年対比8.5%の減となっている。貯金の取り崩しである繰入金については、大型事業に伴うものもあるが、財源調整用としての繰入が増加している。

依存財源については交付税が5%（1億円）の増となっている。

大型事業（豊後中村住宅、統合中学校建設）実施に伴い国庫支出金が50.8%と大きく増加している。同じ理由により、町債も102.5%と大きく増加している。

【歳出】

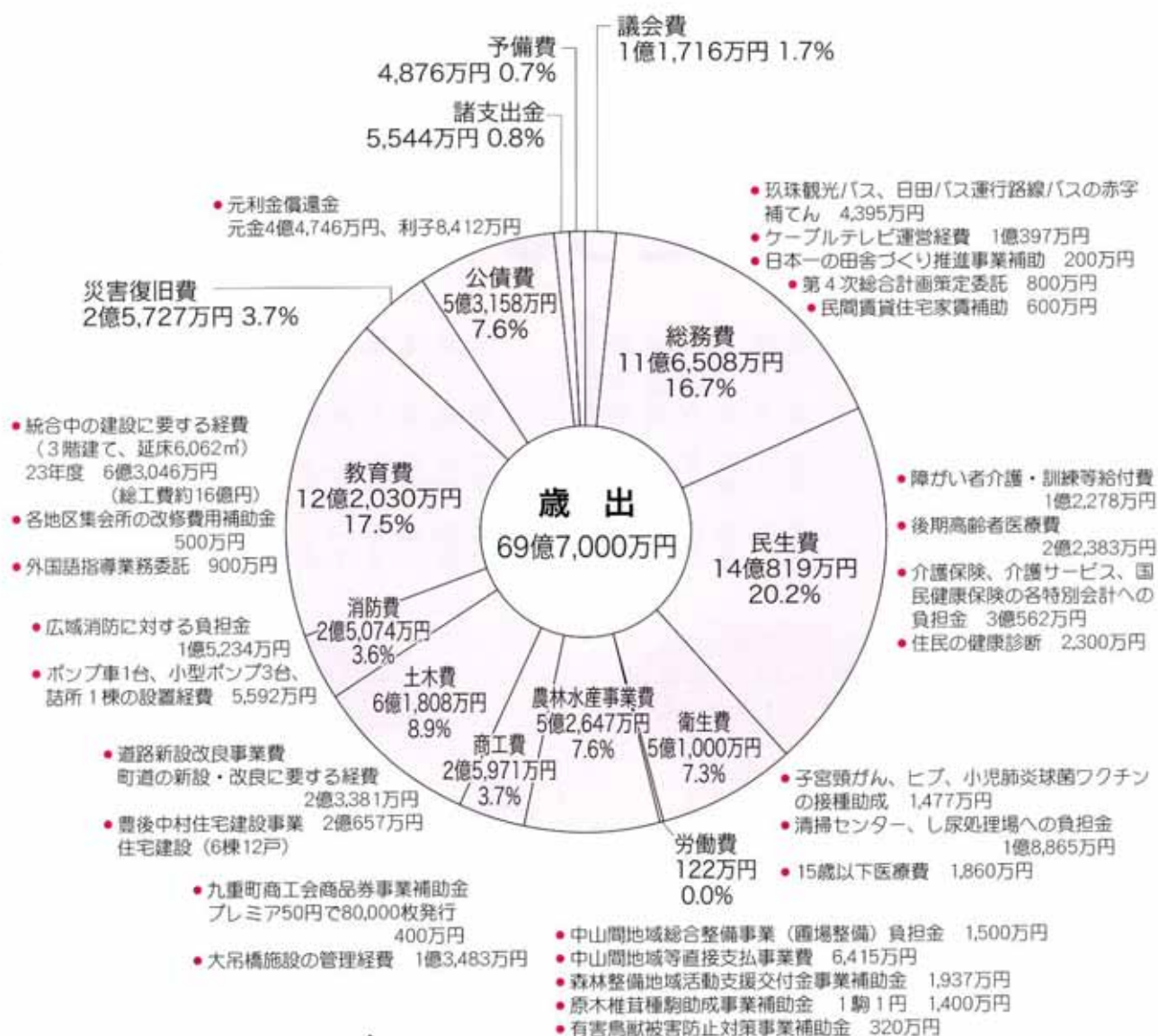
費目	費目	率
議会費	1億1,716万円	1.7%
総務費	11億6,508万円	16.7%
民生費	14億0,819万円	20.2%
衛生費	5億1,000万円	7.3%
労働費	122万円	0.0%
農林水産業費	5億2,647万円	7.6%
商工費	2億5,971万円	3.7%
土木費	6億1,808万円	8.9%
消防費	2億5,074万円	3.6%
教育費	12億2,030万円	17.5%
災害復旧費	2億5,727万円	3.7%
公債費	5億3,158万円	7.6%
諸支出金	5,544万円	0.8%
予備費	4,876万円	0.7%
	69億7,000万円	100.0%

特徴的な事業は、農林水産業費において原木椎茸種駒助成事業補助金として1,400万円を計上。原木椎茸生産者で1万駒以上駒打ちする生産者に対し1駒当たり1円を補助するもの。

商工費において商品券事業補助金として400万円を計上。50円のプレミアで80,000枚発行するための補助金として。

土木費において、豊後中村住宅建設事業として2億657万円を計上。木造2階建てで6棟12戸。

教育費において統合中学校建設事業費として、6億3,046万円を計上。3階建てで延床面積6,062㎡。建設は23年度～24年度で行う。



議長就任にあたって

議長 井上 里子



この度、議員改選後の臨時議会（2月16日）で、議長に選任されました。責任の重大さを痛感していますが、職責を全うするため精いっぱい努力いたします。

本町が新年度取り組み多くのことの中で、町の将来のあり方を方向づけるものとして、

- ・第4次総合計画の策定（H24年度～33年度）
- ・統合中学校建設関連（来年度間の継続事業）
- ・日本一の田舎づくりの具体的施策の実施

があります。住民の意見、要望を十分取り入れて進

めることが必要です。次に議会の役割として、

- (1) 予算、条例、契約などの決定（議決）
- (2) 執行機関の監視
- (3) 政策や条例の提案
- (4) 住民に議会の判断を説明し、民意を集約する。

つまり、決定者、監視者、提案者、集約者の4つの役割があります。前期も、議会の役割を果たすための改革が必要と考えてきました。ようやく芽が出たところです。今期は、議員の勉強会を重ね、住民との地区懇談会を実施するなどして、議会の活性化をさらに進めていこうと、全議員で確認したところです。

執行部と議会がそれぞれ役割をしっかりと果たしながら、住民との協働で、安心して心豊かに暮らせる町づくりに努めます。

皆様のご協力をお願いします。申し上げます。



新しい体制となり 委員会構成はこうなりました。

議長 井上 里子
副議長 坂本 憲治

総務建設産業常任委員会

委員長 日野 康志
副委員長 土井眞一郎
委員 江藤 一幸
委員 佐藤 博美
委員 有吉 富生
委員 佐藤 明郎
委員 坂本 憲治

教育民生観光常任委員会

委員長 藤原 三治
副委員長 大津留敏加
委員 井上 里子
委員 佐藤 勝憲
委員 小川 克巳
委員 池部 俊慈

議会運営委員会

委員長 佐藤 勝憲
副委員長 小川 克巳
委員 江藤 一幸
委員 日野 康志
委員 藤原 三治
委員 土井眞一郎

九重町教育委員の 任命に同意



河野 浩治 さん
(50歳) 野上地区

任命同意とは

町長は、人格が高潔で教育、学術及び文化に関し識見を有する者のうちから、議会の同意を得て、任命する。

(地方教育行政の組織及び運営に関する法律)

固定資産評価審査委員会 委員の選任に同意



永楽 清徳 さん
(58歳) 東飯田地区

選任同意とは

町長は、固定資産の評価について学識経験を有する者のうちから、議会の同意を得て、選任する。(地方税法)

総務建設産業常任委員会

付託された案件

職員の給与に関する条例の一部改正は、

主幹の格付け級において、総務省と県との見解の相違から曖昧な状態となり、6級以上において構成比率が突出していた。今回の改正は、職責と級の格付けの適正化を図るもので、可決されました。

九重町暴力団排除条例

の制定は、

大分県暴力団排除条例の施行に伴い、基本理念や、町・町民及び事業者の責務を定め、安全安心な町づくりを目指すもので、可決されました。

陳情

■陳情受付番号第1号

後野上区長塩崎和秋氏からの、「町道後本村線等の道路改良、拡幅等を求める陳情は、

町道後本村線視察



統合中学校の開校に伴い、交通量の増加が予測されることから、通学路や生活路の安全確保を求めるものであります。

この路線は、幅員が狭く見通しの悪い箇所もあり、安全確保を求める趣旨は理解できませんが、政策道路の位置づけとしては、町道野上釘野線との関係等も考慮する必要があります。継続審査としました。

教育民生観光常任委員会

付託された案件

国民健康保険条例の一部改正について、

緊急の少子化対策により、平成21年10月から平成23年3月末までの暫定措置として、出産一時金支給額を35万円から、39万円に引き上げるため、平成21年6月議会において本条例の一部改正を行ったところですが、今回、その暫定措置であったものを平成23年4月から恒久化することに伴い改正するものであり、適当であるとの結論に達しました。

ふれあい生活課

◎ 国民健康保険基金の残高はいくらあるか。

▲ 平成21年度残高は8千5百万円。

決算状況にもよるが平成22年度に3千万円、平成23年度に3千万円の取り崩し予定である。

このままですと、基

金残高の大幅な減少が予想される。

◎ 国民健康保険税の最高額はいくらか。

▲ 平成23年度は4万円高くなり77万円になる予定。

教育委員会

◎ 平成25年中学校統合について、現在の4校が統合しても教室は足りるか。

▲ 特別教室を2教室多く設けており問題はない。



▲九重山のガイド犬平治号



▲地蔵原のくびなし地蔵

訂正とお詫び

「議会だより」No.92の「わたしのひとこと」で紹介しました、時松愛さんは時松亜衣さんの誤りでした。訂正してお詫びいたします。

当初予算質疑

議会事務局

Q 議会費の共済費の増額は、市町村合併による議員数の激減により原資が枯渇したもので、本来国が手当てすべきで、市町村に負担させるべきではないと思うが。

A 6月1日より制度の廃止に伴う経過措置として、地方公共団体が公費で負担するとされたことによるもので、財政措置されることになっている。

企画調整課

Q コミュニティバス交通負担金と九重町地域交通協議会負担金との関連性について説明を求む。

A 九重町交通協議会負担金の中には委員の手当や交通費を除き大部分はコミュニティ交通負担金と同じ内容である。

商工観光課

Q 観光費と商工振興費に毎年類似の事業があるが、それぞれ効果を出しているのか、又連動性はあるのか。

A 特産品は、町内でアンテナショップをオープンし、県の緊急雇用対策費で人材をつけPR販売している。今後の状況を調査し効果を見ていきたい。

Q 九重町商品券事業の事業効果と評価について、又商工会との協議は。

A 商工会の強い要望で予算化した。事業効果については商工会を通して事業内容を評価したい。

税務課

Q 納税組合育成交付金の中で九重町135行政区中納税組合の結成率・支給率は。

給率は。

A 組織率は組織を組めない地区もあるので100%ではない。現年分の納税率は組合が100%ですが、全体は97%の納税率になっている。

九重“夢”大吊橋施設

Q 大吊橋施設管理運営費、備業務委託料に今年度変更があるのか又業務内容や雇用に対してはどうか。

A 前年度は、事業確定金額の提示、今年度は入札前の金額提示で、前年度より相当の減額が見込まれる。又業務内容や管理費については地元業者委託や町民の雇用を考えている。又経費は削減に努力している。

教育委員会

Q 九重町小・小連携事業補助金の具体的な事業内容について。

A 今年度は南山田小学校と淮園小学校・野上小学校と野矢小学校との交流事業を中心に考えている。

Q 中学校の部活動補助金は予算が十分足りているか。

A 各学校に必要な備品やボールなどの消耗品の購入費を補助している、不足が生じているか学校の

状況を調査検討したい。

Q 社会教育費の人材育成事業補助金と農業費の営農青年組織育成補助金の内容の違いはあるか。

A 人材育成事業補助金は組織団体や個人を対象とした補助金で、営農青年組織育成補助金は若者が農業に従事する為の専門的知識を十分習得する為の補助金である。



▲ 玖珠神楽 (引治)

総務課

Q 栄養士などの専門職が臨時職員扱いだが、町民の健康づくりと言う観点から町としての考えを聞きたい。

A 専門職の正規雇用を望んでいるが、行革と言う観点から正職員として雇用が難しいのが現状である。今後検討したい。



▶ 九重“夢”バーガー

卒業おめでとう



淮園小学校



南山田小学校



野矢小学校



野上小学校



飯田小学校



東飯田小学校

卒業おめでとう

祝第64回卒業式



野上中学校



南山田中学校



飯田中学校



東飯田中学校



第4次総合計画の進め方は

町民アンケートも含め各種団体とも議論を重視

佐藤 九重町の将来あるべき姿、目標となる第4次総合計画を23年度中に策定するとし、予算にも反映されているが、どのように進め町民の声を反映させるのか。

町長 すべてをコンサルタントに丸投げするのではなく第3次総合計画の総括を踏まえて検証し、あわせて町民に対するアンケート等を実施し第3次総合計画の総括、アンケートの結果を踏まえて策定委員会やワーキングチームで十分議論を重ねて素案を作っていく。

町民の願い

佐藤 町民の切なる願いは、町の計画に町民一人ひとりの声を反映して欲しいという事であるが。

町長 基本的に町民に対するアンケート調査、その後、町民が考えるまちづくり会議、各種団体と協議しながら案を策定し、議会や地区協議会に説明、意見の募集を行う

て、その素案をホームページで公開したり、町民意見の募集に付して民意を反映させていきたい。

声は届くか

佐藤 必要対応だとは思いますが、アンケート、各種団体の一部の町民の意見であり、多くの町民は「声が届かない」との思いを強く持っている現実

町長 大きな計画で難しい面がある。年齢、職業、性別それぞれ違う中で最初からでは收拾がつかなくなる。ある程度大きな素案をつくってから皆様に示し、ご意見を聞き、そして実施計画の中で出来るだけ反映をしていく。

町民の元へ

佐藤 究極の目標はやっぱり各集落、地域の活性化であり、町民の所に出向きヒザを交え戸まだけでなく高齢者、若者ともみんなの話を聞く事が今求められているのは。

町長 基本構想の部分はやはり素案を作って実施計画が出来上がったものを地域に行つて、懇談会等で説明しながら実施計画とか基本計画の見直しについて、意見を頂きながら5年後の基本計画、実施計画の見直しを図っていく。



▲東飯田地区協議会視察（佐賀関）

課題の共有へ

佐藤 期限に迫られた計画であってはならない。今回の計画に限らず、集落毎の課題を町民、行政が共有するための集落のための行政懇談会の可能性について再度お聞きしたい。

町長 出来るだけ良いものを作るためには期限にとらわれて、おろそかになつてはいけない。遅くなる事もあるかもしれないが目標はしっかり持たねばならない。



▲地域みんなで花造り（物見塚地区）

やはり集落に向いて行つて、いろいろな地域の課題なり住民の方々とヒザを交えて要望等を聞く事については、今後どう進めるか検討していく課題である。

今後の課題

佐藤 行政にとって必要な時ではなく、年一回でも2回でも定期的な集落懇談会が望まれる。今後の検討課題という事なので、この件については今後も取り上げていく。



町職員の採用は町民を

町内出身者を考えているが

佐藤 23年度の職員採用状況は、7名の採用に対して、4名が町外者となっている。また職員150名の内、24名が町外より通勤していると聞く。町づくりを進める上で、出来れば町内出身者を優先すべきでは。また、職員が町内に定住する事も合わせて必要と考えるが。

町長 町職員採用試験は、一次試験の合格者を横ならびにして、二次試験（面接試験）を実施している。また採用者は、23年度においては町外者の方が多かったが、18年度から22年度までの5年間は、町内者23名に対し、町外者は7名となっている。出来るだけ町内の出身者をと考えているが、公平な立場で選考するためには試験を実施しているの、理解いただきたい。

また、町外に住んでいる職員には、町内に定住するよう働き掛けているが、空家やアパート等が不足している現状では、難しいと考えている。

若者の住める住宅整備を

佐藤 九重町には、16団地197戸の町営住宅があり、公営住宅方式で収入制限もある。町職員も含めて、若者も住める住宅政策が必要ではないか。

賃貸住宅の建設を進める

町長 今回、町有地に公営住宅事業として、豊後中村住宅で12戸の増築を計画し予算計上している。子育て世代や、新婚世帯を優先的に入居できるような政策である。



また、PFI的な住宅整備を推進するため、検討委員会を設置し、公的賃貸住宅建設を進めていく。

空家調査は職員の活用を

佐藤 空家情報の調査のため、臨時職員を1名配置すると聞いているが、職員に地元の調査をさせるべきでは。

職員の地区担当制を活用

町長 空家の情報提供については、区長や職員を活用する事を考えているが、臨時職員には台帳等

の整理業務を主に担当させる。

また、空家の情報も十分では無いため、職員の地区担当制をできるだけ活用していく。

「日本一の田舎づくり」具体策は

佐藤 命と健康、食と農をキーワードにし、自給率100%の地域内循環型経済の構築。また、自然環境保護を目的とした「日本一の田舎づくり」を提唱してきたが具体的な計画は。



▲田舎づくり講演会

200万円の補助金で

町長 「日本一の田舎づくり」を実践するため、200万円の補助金を計上している。食の祭典や、観光用のガイド手引書、日本一の田舎風景写真コンテストなどを実施したい。

また、町内の組織と行政が一体となって、農と商と観を結び付け、核となる組織を育成していく。

大雪による除雪と雪害対策は

除雪は自助共助で



藤原 三治



▲大雪で除雪が待たれる町道

町長 除雪費用は昨年の二倍の1590万円かかり、一時間100(積雪20センチ以上)の軽油チケット代40万円、除雪機借上費165万円の他は塩カリと散布委託である。除雪機が足りず手が回らないので、軽油補助の利用を周知して、固まる前の初期除雪に自助、共助でお願いしたい。

藤原 山間部では、一月以上も凍結で不自由な生活を強いられた地域もある。一時間100の軽油の補助を活用しボランティアの力で初期除雪はできないか。

雪害の支援はできないか

藤原 大雪により農業用ビニールハウスの倒壊が多く発生した。玖珠町では、補助支援を行っているが被害の多い九重町でも支援できないか。大雪や台風に対して町はどのように対策、指導を行っているのか。

県と協議する

町長 現在、30戸58棟の被害を把握しているが、共済に入っていない人が大半であり、町としても県と協議して支援を考えているが厳しい状況である。被害防止に無線やケーブルTVを活用する事も考えられるが、自分で支柱を立てたり、雪おろしをする事も必要と考える。



▲大雪で倒壊したビニールハウス

積極的に資金の活用を

町長 野菜は異常気象等で生産量が減少したが、高価格により農業生産額は昨年並みの45億円程度が見込まれる。来年度は、資材や燃料の値上がりもあり厳しい一年が予想される。自給飼料の確保、化学肥料の削減や省力化機械施設の導入、機械の共同利用、集落営農組織の設立などでコスト削減を推進していきたい。

食品の加工所については重要な事であり、必要性は理解できる。経営形態等に問題があり、現在は法人による経営が多くみられる。

加工技術の研究や知識の習得に、就農者支援事業の予算も積極的に利用して頂きたい。

竹林整備で副収入を

藤原 昨年、1kg100円で70トンの竹の子の取引引きが玖珠で行われ、今年も数社の引き合いが来ている。県も竹の子生産

の講習会を開き、100%補助事業で粉砕機導入を進め、県下でも多くの町村が取り組んでいる。竹林整備に力を入れて補助金も出している。竹材は肥料や、ハウスの補強、竹炭に利用でき、竹の子は毎年副収入に繋がる。荒廃する竹林を守るためにもぜひ推進すべきではないか。



▲県の行った竹の子の生産講習会

町長 九重町の竹山は、急峻な所が多く作業の危険性や経費負担が大きいと予想されるが、要望があれば補助事業に乗せてやっていきたい。

藤原 九重町の基幹産業である農業の今年度の所得の見込みと、今後の対策は。農産物の付加価値をつけるために、加工、研究を行い、食品加工所の設置と特産品の開発が必要ではないか。

農業の所得向上対策は

選管は公正公平な審判を！

検証して次回に生かす。



江藤 一幸

江藤 町議選の課題どう整理・総括され今後に生かすか。

国会議員選挙では、選挙公報がある。県議会でも条例をつくり今回より発行と聞いている。

町でも条例制定し、次回の町長選から発行してはどうか、情報難民がいるという事実もある。

公職選挙法141条に基づいて、ある候補に注意をしたが、なぜ1名だけなのか？ 錯誤の時は謝罪を！ 選挙は公正・公平にすべし。開票は、多くの町民が期待している。CATVで次回選挙開票から知らせるように。



選管委員長 選挙事務は特に大きな問題はなかった。投票率が低下、公報活動の方法か、無関心層の増加か、検証し次回に臨む。

選挙公報・ポスター掲示板は市町村の条例をもって、議員選挙等で発行。設置することも出来る規定がある。必要があれば、議会と相談したい。法141条は、選挙運動のために使用される選挙用自動車は、候補者1人につき1台、拡声器1そろいという条項である。

故意ではなく錯誤でした当事者には謝りたい。CATVは最終の確定票のみ流した。

学校現場の今の取り組みは、現状と課題は何なのか。

本気で人材育成せよ！

江藤 学校現場の今の取り組みは、現状と課題は何なのか。

学校経営や学級経営がうまくいっている学校と、そうでない学校とに、二極化の状況にあるやに聞かされた。

平成25年には、新設の中学が出来る、統合する前より良くなったと言える仕組み、内容になるよう期待する。十分な準備を。

社会教育は、金銭だけの支援じゃない。若者が切磋琢磨し、地域課題や自分の生活課題を自ら克服する、行政が言う自立、自助を喚起するそのための若者の交流支援について、教育委員会の本気の議論と成果に期待する！



教育の再生をめざす

教育委員長 学校現場の現状は、決していいと言える状況ではない。

かなりの学校において、授業が成立しないのは事実で、指導主事、各教育委員、支援教員等が学校に赴き、指導を行っているが、短時間に解決する状況にはない。困難校の原因の一つは、教師集団が機能を喪失し孤立している。教師集団としてつくり上げていくことに力を入れている。

社会教育体制、力不足を感じる。社会教育サイドの大事な仕事ですが、人材育成は、役場全体で町民を含めて協働で培っていく問題だと思っている。ご協力を！

わたしのひとこと

町を守る？

町が守る？

宝泉寺

佐藤 勝司さん



今我が町は、ここ数年の間、大きな災害等もなく安心をしておりますが、近県では幼児にかかる大変痛ましい事件が発生しています。どこの県、町でも不安でいっぱいではないかと思えます。ここは親が守る、当たり前のことだと思えますが、この事件だけではないですが、防火、防災等々の災害においても各人が防災意識を常日頃から心がけていなければならぬと思えます。又今日この日は（3月11日）東日本大震災が発生した今その時です。地震、津波このような現状を今までに見たことがないような凄まじい光景です。このような状況では人は何もなすべがないのでしょうか。九重町においてもこのような事



が起こる可能性があります。そこで町民の生命、身体、財産を守る消防団、警察、自衛隊、との協力による活動になるわけですが、今消防団員が減少しています。若い人はいるのですが新入団員の加入が少ないのです。町としてもこのことに対して考えてほしいと思います。又どこの集落に行っても人が少ないのです。その少ない集落でも日頃から地域を見回り安心して暮らせるようみんなで協力しているからこそ九重町では大きな事件事故や災害が少ないと思えます。これからも地域が一体となって安心、安全で暮らせる町にしましょう。最後に今九重町では交通死亡事故、無事故が2000日（5年以上）続いているのです。この事についても地域が町が又町民が一体となって続けていきましょう。

公民館は地域の

“編み機”かな。

東飯田 下旦4

阿部 征則さん



私は、東飯田放課後児童教室、「宝つこ夢フィールド」のお世話をさせて頂いています。毎回の計画が悩みの種ですが、公民館の事業のお手伝いが出来ればと、地域の方々のスタッフのご協力をいただき運営しています。子どもの育成は、家庭・学校・地域の連携が大切だと言われています。学校や家庭の外で、「地域の先生」の指導のもと、子ども達に体験学習等の場を作ること、とても意義のある事だと感じています。

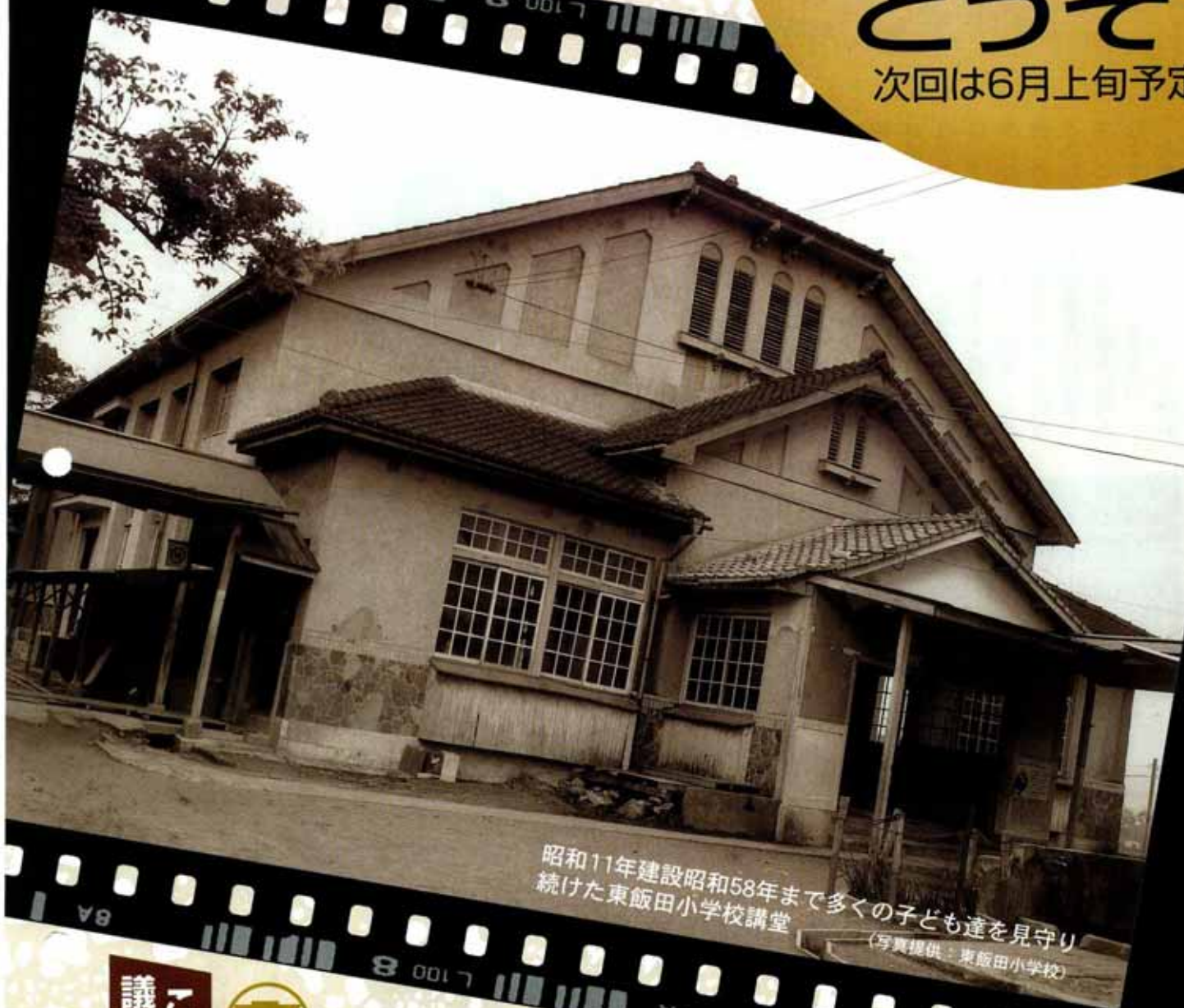


多くの「地域の先生」を「夢フィールド」にお招きして、私達保護者の世代にもご指導を頂きたいですね。地域のつながりが希薄になったと言われる昨今、多くの人とふれあいのある機会と場所がとても大切なのだと思います。これまで構築してきた同年代の「横の糸」のつながりに、これからは世代間という「縦の糸」を紡ぐことで、地域のより強い絆のネットワーク（網）が出来るのではないのでしょうか。その「編み機」は、やっぱり公民館なのかな。

思い出のアルバム No.5

傍聴へ どうぞ

次回は6月上旬予定



昭和11年建設昭和58年まで多くの子ども達を見守り
続けた東飯田小学校講堂
(写真提供：東飯田小学校)

このえ
議会だより
NO.93号



発行／九重町議会
編集／議会広報特別委員会
平成23年4月17日
〒879-4895 大分県玖珠郡九重町大字後野上8番地の1
☎0973-76-3814・FAX 0973-76-3809
メールアドレス(議会事務局) gikai@town.kokonoe.lg.jp.

お手持ちのなつかしい写真をお貸しください。

編集後記

▼頑張りょう 日本、高校球児の選手宣誓の一コマです。戦後生まれの私は、戦後の復興の事はわかりませんが、今回の大震災は、全世界の人々から応援していただいています。心から、皆んなで支援をしたいと思います。

▼九重「夢」大吊橋も、多くの方々に訪れていただき、九重町のみならず、周辺地域にも多大な経済効果をもたらしています。しかし、大吊橋の建設を考えた当初は、経済のみならず、九重の景観も売り物の一つではなかったのが、今回の原発の事故も経済優先と便りさ優先の結果ではないでしょうか。将来の子ども達のために、今、自分達は何をすべきかを考えたいと思っています。

坂本 憲治

- ・ 広報委員長 坂本 憲治
- ・ 副委員長 藤原 三治
- ・ 委員 日野 康志
- ・ 委員 大津留敏加
- ・ 委員 池部 俊慈
- ・ 委員 佐藤 明郎